

輝勢会視察研修報告書

報告者： 草津市議会
輝勢会： 横江 政則

(ア) 視察研修の概要

(1) 日時

令和6年7月8日(月)～7月10日(水)

(2) 訪問先及び内容

令和6年7月8日(月)	宮城県石巻市	水辺を活かした地域活性化事業
令和6年7月9日(火)	宮城県仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館他
令和6年7月10日(水)	秋田県横手市	伝統的建造物群保存地区街並み他

(イ) 参加者

輝勢会：	中嶋 昭雄	小野 元嗣	横江 政則	服部 利比郎
	中島 美徳	井上 薫	福田 茂雄	伊吹 達郎

(ウ) 研修内容

令和6年7月8日(月) 宮城県石巻市 水辺を活かした地域活性化事業

宮城県石巻市は、県東部の太平洋に面した位置にあり、仙台市に次ぐ人口位の市として発展し北上川河口付近に多くの船が停泊し漁場として栄えていた。

平成23年3月の東日本大震災による津波による被害が大きく、無堤防区間で津波により河口部の船はもとより家屋においても流され壊滅的な被害にあわれた。

震災から10年を超える期間を経て、無堤防であった地区には 堤防が完成され、その整備と連携した「かわまちづくり」の推進、「水辺を活かして地域の賑わい創出」を目指す取組がされた。

「取り組み内容」として河川空間のオープン化での様々なイベントの開催。夜の景観演出、水辺花火観覧、水辺ライブ、映画上映会、水辺でのヨガ体験など様々な取り組みにより、令和4年度に「かわまち大賞」を受賞。令和5年1月10日に国土交通大臣より表彰状を授与されました。

- 石巻市議会事務局 事務局長 赤津善正 様
- 石巻市建設部 参事兼河川湾高規格道路整備推進課長 橋本匡浩 様
- 石巻市産業部 課長補佐兼商工労働係長 小須田美紀 様
- 石巻市産業部 商工課商工労働係主査 小暮聖 様

質問：

- (1) 「石巻かわまちオープンパーク」には、いろいろ楽しみのある企画が仕掛けられています。その運営・委託は、(株)街づくりまんぼうで、平成13年2月に石ノ森漫画館のために設置されたものと認識しております。将来的な運営体制はどのようにされますか。
 - ✓ 将来的な運営体制については、現時点で明確にきまったものではありません。
「官民連携まちなか再生推進事業」のなかでプラットフォームを立ち上げ、その中で主体的に活用し、賑わいを創出していこうと今年度から取り組んでいく。
- (2) かわまちエリアのマネジメント、イベントの担い手を任されることになるかと思いますが、全く違ったノウハウが必要だと思いますが、実際にタウンマネジメントを担うような人材がおられますか。
 - ✓ タウンマネージャーという認識をお持ちかどうかわかりませんが、かわまちづくりの時点から本市のまちづくりに携わっている方がいます。
- (3) 関連質問として、(株)街づくりまんぼうが、かわまちのエリアのマネジメントをされていることになったのはなぜか。また、行政、(株)街づくりまんぼうや民間事業者からの発意なのでしょうか。また、(株)まちづくりまんぼうに市からの出向者はおられますか。
 - ✓ マネジメント全体を委託しているというわけではありませんが、かわまちエリアの利活用をどのように進めていくかを検討・議論する「かわまちエリア利活用協議会」というのを民間・行政のメンバーにより、立ち上げており、その中でかわまちエリアの活用・運営は(株)まちづくりまんぼうを中心に進めていくことを決定している。市からの出向者はおられない。
- (4) 活性化のためには、アイデアは欠かせないと強調されておられますが、市民参加の状況と地域の方々の反応や評価についてお聞かせください。また、元々船運・海運等の資源を観光集客にどのように活用されておられるのか。また、季節に応じた集客のための工夫についても併せてお伺いします。
 - ✓ 街づくり会社の街づくりまんぼうが「かわまちエリアマネジメント検討会」中心市街地の若手事業者や大学生等を招いた意見交換を行っている。
 - ✓ 若い人たちからは活発な意見が出ており、現在市民・民間の意見をまとめた「未来ビジョン」をまとめている。
- (5) 市外（県外）の観光客に対して、市内外（近郊）の観光スポットと連携されているのか、まへ、各拠点間の移動交通ネットワークについてお伺いします。

- ✓ 交通ネットワークについては、震災後の復興事業の中で整備がすすめられた三陸沿岸道路や鉄道で言えばこれまでの仙台線に加え、仙台東北ラインを利用いただくことで、移動時間も短縮されている。
- (6) 川辺エリアの賑わいへ広げるため、ウォーカブル空間の創出を進めようとしていますが、ウォーカブルには車両規制が必要だと考えますが、エリア住民の合意形成をどのようにされているのか、また、ウォーカブルは行政主導なのか、地域・民間主導なのかお伺いします。
- ✓ 現時点でウォーカブルエリアの車両禁止は考えておりません。また、街づくり会社やイベント主催者が街なかのイベント時に一部区間を必要に応じて歩行者天国にすることがある。
- (7) 中心市街地全体の駐車場マネジメントにおいて、今回開発された川辺エリアに駐車場が充足し、駅前エリアには少ないように思われます。これは意図的に駅への歩行者を増やすためフリンジ駐車場として、商店街を歩いてもらうよう意識して配置されているのでしょうか。そもそも交通の設計として、駅前まで一般車両を入れないという考えで良いかお聞かせください。
- ✓ かわまち立体駐車場は震災後川沿いエリアに集中的に事業投資することにより、交流人口の増加や賑わい創出を図る目的で整備した。
 - ✓ できるだけ街なかを歩いてもらうため、中心市街地の端側である川沿いに設置しております。また、マンガロードなど歩いてみたくなる仕掛けづくりに取り組んでいる。
- (8) 事業展開後、経済効果と税収の変化はどのようになりましたでしょうか。地域・経済の観点から、地域の雇用創出に繋がっているのか、今後の検討事項も併せてお聞かせください。
- ✓ 川沿いエリアに集中的に投資を行った結果、元気いちばには100万人を超える観光客が訪れているが、一方で市街地全体への経済効果・雇用創出は、これからの課題。
 - ✓ 賑わいを市街地全体に波及させるため第4期計画策定を進めている。
- (9) 持続可能な地域活性化を実現するための取り組みについてお伺いします。
- ✓ 中心市街地にある空き店舗などの既存施設の利活用を促進するため、令和3年

度から空き地・空き店舗活用事業助成金事業を行っており、3年間で13店舗が補助金を利用して中心市街地に出店している。

- ✓ 観光だけに頼らない日常づかいしてもらえる目的地(お店等)づくりが重要と考えている。

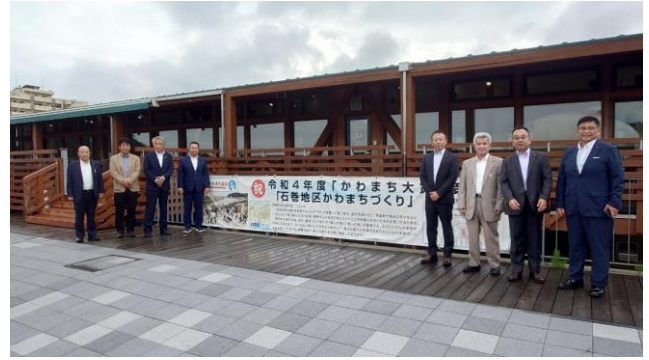
所見:(感想)

- (1) 津波による大被害を受けた河川、水辺を活かしたまちづくり、特に河川空間のオープン化の中での、花火観覧、水辺でのヨガ体験、ライブ、映画上映会等の取組は地域の一体感を養う素晴らしい活動だと思う。本市としては、びわこ岸の水辺空間の活用を考える必要があると考える。
- (2) マンガ家の石ノ森章太郎の生誕地を利用したマンガロードの活用は、大人と未来を担うこどもを巻き込む活動で本市は東海道52番目の宿場町である東海道ロードといして活用できれば良いと考える。

所見:

- (1) 震災被害からの復興事業ではあるが、復興という大きな目標があり住民同士が連携しやすい環境にあることは本市と違いはある。
- (2) 歩行者数の観点から川沿いエリアのみ増加し、その他のエリアが横ばいの状況は、草津川跡地公園周辺の歩行者が増加し、その他のエリアに波及していない点と似ている。この点はそれぞれの課題と考える。
- (3) 本市の中心市街地での観光客をターゲットにした商売は厳しいと考えるが、中活による都市施設整備後のステップとして、都市再生推進法人を中心としたウォークアブルなまちづくりに取り組もうとされている点は参考にできる。
- (4) 石巻市では、駅前より川沿いエリアをまちの顔としているが、本市で草津川跡地をまちの顔とするようなもので違いはあるが、石巻市の中活計画では「駅前エリア」「立町・中央エリア」「川沿いエリア」とエリア分けし、回遊するまちづくり戦略が、本市の「駅東エリア」「駅西エリア」「本陣エリア」と似ているので参考にできる。

(工)参考資料・写真(添付)





文責:横江政則

輝勢会視察研修報告書

報告者： 草津市議会
輝勢会： 福田 茂雄

(ア) 視察研修の概要

(1) 日時

令和6年7月8日(月)～7月10日(水)

(2) 訪問先及び内容

令和6年7月8日(月)	宮城県石巻市	水辺を活かした地域活性化事業
令和6年7月9日(火)	宮城県仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館他
令和6年7月10日(水)	秋田県横手市	伝統的建造物群保存地区街並み他

(イ) 参加者

輝勢会：	中嶋 昭雄	小野 元嗣	横江 政則	服部 利比郎
	中島 美徳	井上 薫	福田 茂雄	伊吹 達郎

(ウ) 研修内容(見学)

令和6年7月9日(火)	宮城県仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館
	宮城県仙台市	震災遺構仙台市立荒浜小学校

(1) せんだい3.11メモリアル交流館(説明者：大柳さん、青野さん、花淵さん)

1. 東日本大震災の発災から5年経過した2016年2月開館。東日本大震災を知り学ぶための場であるとともに、津波により大きな災害を受けた東部沿岸地域の玄関口。記憶と経験をもとに、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎ出し、未来へ、世界へとつないでいく拠点。
2. 1階交流スペースは、津波浸水区域等を表示する立体地図やスライド、図書コーナーなどの仙台市東部沿岸地域の情報を発信
3. 2階展示室は、震災被害と復旧・復興状況を伝える常設展と、様々な切り口から震災を伝えていく企画展で構成
4. 入口に設置されているこちらの大きな水槽では、宮城教育大学が震災発生前に採集していた若林区井土地域のメダカを飼育。これは津波の被害に遭った井土地域のメダカを繁殖させてふるさとに還すための取り組み。

(2) 震災遺構仙台市立荒浜小学校

1. 荒浜地区は、仙台市中心部から東に 10 km離れた太平洋沿岸部に位置。沿岸線に沿うように歴史ある運河・貞山堀が流れ、その周囲に約 800 世帯、2,200 人が暮らす集落があり、荒浜小学校は 1873 年創立、海岸から 700m 内陸に位置し震災当時は 91 名の児童が通学。東日本大震災において、児童や教職員、住民ら 320 人が避難され、2 階まで津波が押し寄せる。
2. 校舎外周・1 階・2 階では、校舎の被害状況や被災直後の様子を伝える写真などから、襲った津波の脅威を知ることができる。
3. 4 階・屋上では、地震発生から避難、津波の襲来、救助されるまでの経過を写真や映像で振り返るとともに、災害への備えについて学ぶことができる。
4. 4 階展示室「3.11 荒浜の記憶」で上映されている映像は、14 時 46 分の地震発生から 27 時間後の避難者全員の救出、当時の校長や町内会長などへのインタビュー、消防映像を 17 分にまとめた内容。

所見（感想）

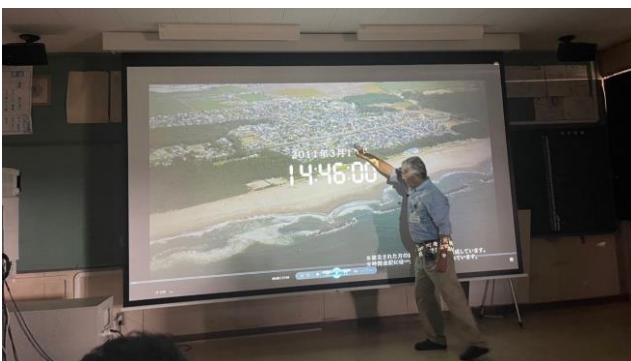
1. 津波警報 5 分以内は出されるが、実際に 70 分後に津波が襲来。直近では約 400 年前に起こっているが経験上、津波は来ないと考えている。また、70 分あれば津波がきていない地区まで移動可能であった。（過信）
2. 東日本大震災数日前に避難訓練を行っているが、運動場に避難したのみで校舎上階への避難は行っていない。
3. 体育館も壊滅しているので校舎避難が結果的に良かった
4. 高速道路が高台、防潮堤になり助かっている方もおられる。
5. 簡易トイレは校舎内に設置されたが、利用はほとんどなかった。（トイレ問題）
6. 備蓄物品を校舎 3 階で保管されていたため被害はなかった。（備蓄品保管）
7. 校長・教頭の的確な判断。児童を校舎内に戻すことで最小限の被災。

所見

1. 過信することなく避難訓練の重要性を再認識
2. トイレ問題。マンホールトイレ・トイレトレーラーを周知させることが重要
3. 町内会別の防災マニュアルの作成。特に防災倉庫（防災備蓄品）を使った避難訓練

(工) 参考資料・写真(添付)







文責：福田茂雄

輝勢会視察研修報告書

報告者： 草津市議会
輝勢会： 伊吹 達郎

(ア) 視察研修の概要

(1) 日時

令和6年7月8日(月)～7月10日(水)

(2) 訪問先及び内容

令和6年7月8日(月)	宮城県石巻市	水辺を活かした地域活性化事業
令和6年7月9日(火)	宮城県仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館他
令和6年7月10日(水)	秋田県横手市	伝統的建造物群保存地区街並み他

(イ) 参加者

輝勢会：	中嶋 昭雄	小野 元嗣	横江 政則	服部 利比郎
	中島 美徳	井上 薫	福田 茂雄	伊吹 達郎

(ウ) 研修内容

令和6年7月10日(水) 秋田県横手市 伝統的建造物群保存地区街並み他

(1) 横手市増田(重要)伝統的建造物群保存地区を活かしたまちづくり

- 横手市議会議長 小野正伸 様
- 横手市まちづくり推進部増田地域課 課長 齋藤弘 様
- 横手市議会事務局 総務係 副主幹兼係長 佐藤知也 様
- 平成23年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された横手市増田地区では来街者の増加に伴い、所有者らによる建物の公開の他、空き店舗も活用され賑わいを創出するなど、歴史を活かした持続可能なまちづくりを推進されておられます。その背景や実施方法などについて横手市増田生活環境施設増田の街並み案内所「ほたる」において座学で、実際に蔵の駅などの街並みやまんが美術館の見学などを通じて調査研究を行いました。

(2) 横手市増田まんが美術館事業

- 横手市まちづくり推進部横手の未来とものつくる課 副主幹兼係長
吉野真由美 様

質問①：

- (1) 住民のまちづくりの観点から重要伝統的建造物群地区での特徴的な取り組み事業、教育的なプログラムやイベント等はございますか。
 - ✓ 「増田蔵の日」開催。普段非公開の家屋も含めて25棟ほど公開。実行委員会方式で補助金125万円。今年で16回目。2024年は10月6日開催予定。
 - ✓ 蔵の日当日、家屋の案内等を増田中学生が行う。そのため事前レクとして町並みや内蔵について学習する。⇒郷土愛や地域への誇りの情勢を目的に。
- (2) 保存地区について、エリアマネジメントを担う団体はありますか。今後、まちづくり会社のような組織を作り、事業として地区運営を任せていく予定はありますか。
 - ✓ 増田まちなみ保存会⇒伝統的建造物エリア内の会員で構成。防災（消火）訓練等を実施。
 - ✓ 増田まちなみ研究会⇒市内の建築士等で構成。5～11月第3日曜日に修理・修景相談会を開催。
 - ✓ 増田蔵の会⇒内蔵所有者が会員。
 - ✓ まちづくり会社などによる地区運営は現在のところ考えていない。
- (3) 地区住民にとっての魅力、保護地区における住民の防災計画に特徴的なものはありますか。
 - ✓ H30～R2地上式消火栓8基、易操作性消火栓15基、耐震型防火水槽3基整備。以後、住民による消火訓練を実施。
 - ✓ 当地域は特別豪雪地帯の指定を受けており、平地でも250cmほど積雪。住民の高齢化に伴い冬季除雪が課題となっている。特別な助成制度なし。
- (4) 観光集客にあたり公共交通機関の利便性について工夫はされていますか。伝統的建造物群保存地区の歩行空間について、車両の通行規制やバリアフリー、駐車場マネジメント等、人中心の歩行空間（ウォークアブル空間）を意識されていますか。
 - ✓ 冬季間、積雪により道幅が狭小になることから、電線等の地下埋設工事を行い、無電柱化による歩行者空間の確保と落雪防止を図っている。（H26～R4）
 - ✓ 大型車両通行規制あり。
- (5) 都市計画と連携しながら歴史的な街並みの保存と整備を行う際に最も配慮されていることはありますか。

- ✓ 国土交通省の街なみ環境整備事業による施設整備。(H26~H31)
 - ✓ 伝統的建造物エリアについては、伝建制度の許可基準に則る。コミュニティラウンド(トイレ・休憩所)など。
 - ✓ 景観条例、屋外広告物条例、サインガイドライン。
- (6) この保存地区のブランディングや、観光客誘致戦略の主体は行政ですか。地元ですか。
- ✓ 基本的には行政が主体で行っている。
- (7) 横手市への合併は、この保存地区に向けた影響はありましたでしょうか。(調整区域で市から放置される可能性があり住民が連携しやすかったなど)
- ✓ 合併による影響はなし。市町村合併はH17年。伝建選定はH25年12月。
 - ✓ 合併による職員のスケールメリット効果⇒伝建選定へ結実。
- (8) 保存地区指定後、店舗出店が増えているようですが、出店者が各自所有者になりますか。それとも増田地区保存会等が組織的に店舗誘致されているのか(店舗形態等のブランディングも面的にされていますか)。
- ✓ 各自所有者が対応。保存会や行政もマッチングはない。
- (9) 伝統的建造物群保存地区街並みが地域経済にもたらす影響、また街並みとマンガという文化との相互交流についていかがでしょうか。
- ✓ H17写真集「増田の蔵」発刊⇒内蔵を知られるきっかけ⇒数軒が公開開始⇒H25重伝建選定(105番目)※それまではシャッター通り。
 - ✓ H28、JR大人の休日倶楽部(吉永小百合さん)CMおよびポスターで認知度が上昇。
 - ✓ 違う客層の相互回遊が課題。伝建エリア内でのスランプラリー、マンガキャラクター商品化など。
- (10) 景観を保存するため、若い事業者による活用を支援する取り組みを進めようとしているが、なかなか所有者が空き家等を貸してくれない。保存地区の指定を受けて、周辺の建物(空き家)所有者等の意識変化はありましたか。
- ✓ 伝建エリアで空き家は2~3軒。近年テナント化もみられるようになった。

- ✓ 修理修景件数H26から10年で42件。歴史的建造物が連坦しはじめ魅力が向上してきている。

所見：

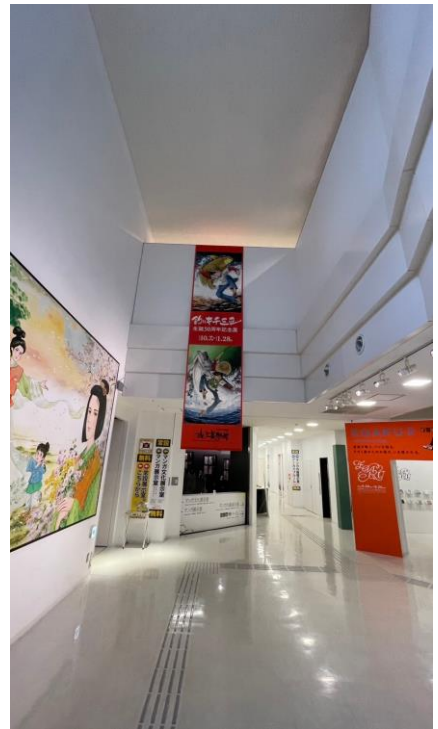
- (1) 横手市増田地区は伝統的建造物群保存地区に指定されているものの、街道により栄えた商店街であり、景観法における景観重点地区に位置づけられているところなど草津宿本陣周辺との共通点があり、見習うところが随所にある。特に商店主が積極的に公開に協力している点や「釣りキチ三平」を使ったポスターや説明書きは統一性と奇抜性に富んでいた。また、まんが美術館も近くにあり観光客の今と昔をつなぐ、とても素敵な組み合わせとなっていた。
- (2) 豪雪地帯ということで無電柱化が進んでいて、障害物がなく災害に強いまちづくりとなっていた。また、銀行や商店の色も統一されていて景観法がしっかり守られていることもこの街の魅力となっていた。

(工) 参考資料・写真（添付）









文責：伊吹達郎